

自立活動学習指導案

難聴通級指導教室（たいよう教室）1人（女子）

指導者 北川 政人

1 題 材 名 楽しく会話しよう

2 題材について

(1) 題材の価値

現在第6学年の対象児は補聴器を装用し、主に、聴覚口話法によってコミュニケーションを図っている。発音も比較的明瞭であり、日本語による日常的な会話のレベルであれば、口型なども参考にして、相手の話をある程度聴き取り、理解することができる。しかし、本来明るく活発であるが、学習全般においても、分からないことを質問したり、自分の思っていることを言葉に出したりすることに抵抗を感じている様子も見られる。これは、聞こえに対する自信のなさや不安、分からないことを相手に伝えることへの恥ずかしさ、また、コミュニケーションを図ることの楽しさを十分に味わうことができていないことに要因があると考えられる。また、現在、在籍校で先行実施され、週1回行われている外国語活動の授業では、新しく出てくる英語の音声に対して聴き分けたり、聴いたことを復唱したりすることは難しい。そのために、「英語が分からない。楽しくない。」という感想を授業後にもっていることも多く、外国語活動に対する苦手意識が表れ始めている。このような状況が続けば小学生の段階で英語嫌いになることが予想され、中学校における教科英語への学習意欲も減退しかねないとする。

そこで、本題材では、在籍校の外国語活動で取り扱う題材を活用し、活動の中で積極的に相手の伝えようとしていることを聴き取ろう、理解しようとする傾聴態度を身に付けさせたい。また、分からないところは自分から進んで相手に尋ねることができるような姿勢も身に付けることができるようにしたい。更に、楽しみながら英語に触れることで、自信をもって在籍校の外国語活動に取り組むことができるようにしたい。

指導に当たっては、まず対象児が自信をもって外国語活動に取り組めるように、通級指導の中で、現在在籍校で学習している「英語ノート2」の英語の語いや表現を使って、活動を進めたい。また、音声だけでなく「英語ノート2」のデジタル教材を使って、視覚的にとらえやすくしたい。そして、学習したことをまとめてファイル化し、いつでもそのファイルを見ながら家庭における発音の練習や、在籍校での授業の際の発音の手がかりとして使えるようにしたい。また、英語を話している人の口元や音声を聴き取ろうとする傾聴態度と、分からないときには、分からないことをきちんと意思表示して相手に伝え、分かりやすいように説明してもらったり、英語の発音をカタカナで表記してもらったりして、発音の手がかりにするという方法についても継続して指導していきたい。更に、外国語活動の中でも多様なコミュニケーションの方法を使って相手に伝えることの大切さが求められていることから、ジェスチャーや絵などの表現方法も使って相手に伝えることの楽しさ、分かることの喜びを十分に味わうことができるようにしたい。

このような学習を通して対象児は、自信をもって在籍校での外国語活動に取り組み、コミュニケーションを図ることの喜びを感じながら自ら積極的に活動に取り組んだり、周りに働きかけて自分が分かりやすい状況を作ったりすることができると思う。そのことが、対象児の自信につながり、また、生活の豊かさにつながっていくと考えられる。

(2) 題材の目標

英語に慣れ親しみながら、コミュニケーションを楽しむことができる。
話す人の口型も参考にして、音声を聴き分けようとする積極的な傾聴態度を身に付ける。
分からなかったことを意思表示し、相手に伝えることができる。

(3) 対象児の実態

教育的ニーズ		<ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちと周りの状況を考えながら，コミュニケーションを図ることができる。 分からない言葉や初めて聞く言葉について，相手に尋ねたり，自分自身で意味を調べて使い方を学習したりして，会話や文章の中で使うことができる。 	
聴 力	右	左	
	裸耳 97 dB 補聴器装用時 34 dB	裸耳 87 dB 補聴器装用時 42 dB	
コミュニケーションの実態	話し・発音	<ul style="list-style-type: none"> 同学年の子どもに比べて，知っている言葉の数は少ない。 発音は比較的明瞭であるが，サ行については，あいまいな発音になることがある。 	
	コミュニケーションの実態	<ul style="list-style-type: none"> 友達や家族と話をするのが大好きだが，会話が一方的になることがある。 相手の気持ちを考えた行動や言葉遣いがないことがある。 周囲の状況にふさわしい声の大きさが意識できていないときがある。 	
	傾聴態度	<ul style="list-style-type: none"> 話をする相手の音声と共に口型も見て，積極的に相手の話す内容を理解しようとしていないときもある。 聴き取れなかった内容や理解できなかった内容を，相手に聞き返さずに，そのままにしていることがある。 	
	言語の形成 外国語活動における実態	<ul style="list-style-type: none"> 果物や色，100までの数字，スポーツの名称については，英語で言うことができる。 英語に関しては，聞いたことをそのまま発音することは難しいので，絵や写真などと一緒に，単語に関しては発音をカタカナで表記し，視覚的なものも手がかりとして，自信をもって発音できるようにしている。 	
	行動観察から	<ul style="list-style-type: none"> 難聴のために，聞いたことを正確に書いたり，正確に理解したりする部分には多少の困難さがあるが，視覚的なものを手がかりとしたり，簡単な言葉で丁寧に説明したりすることで，十分理解することができる。また，見通しがもてないような活動に対しては，不安になる傾向が強い。 	

3 指導に当たって

本題材の指導に当たっては，子ども一人一人が，「学び」を見つめ「学び」を生かし，達成感を味わうことができるように，以下の点に留意して指導をしていく。

研究の視点1 認知の特性を生かした，「学び」を見つめやすい状況づくり

- 対象児は難聴のため聴覚的な入力については困難さがあるが，短く簡単な言葉で，口型をはっきりと見せて伝えることで，こちらが伝えたい内容を理解することはできる。そこで常に授業においては教師の口元が見えるように留意し，理解しているかどうかをその都度確認しながら会話を進めていくようにする。
- 言葉による説明の際には，視覚的な情報も同時に提示することで，より理解がしやすくなると考えられるため，これまでの学習を振り返る際には，学習した内容が視覚的に分かるものをあらかじめ準備し，聞き取りの手がかりとして活用できるようにする。

研究の視点2 子どもが自己を振り返りやすい状況づくり

- 話す人の口型を見て，内容が理解できたことや，分からないことを意思表示して，分からなかった話の内容が理解できたことで，コミュニケーションをこれまで以上に楽しむことができるのだという達成感を十分に味わうことができるようにする。また，指導計画の第1次の第4時と，第2次の第4時を重点評価場面と設定し，学習した内容を家族や在籍校の先生に伝えることによって学習内容の定着を図り，称賛されることで，達成感を味わうことができるようにする。
- 英語の発音をカタカナ表記したものとワークシートなどが綴られたファイルを，通級指導の活動の中や，在籍校の外国語活動の中，家庭学習の中で活用することで，これまでの学びを想起しやすくし，学びを生かすことができるようにする。

4 指導計画（全8時間）

太線枠は重点評価場面

家庭や在籍校との連携

過程	時間	指導のねらいと主な活動内容	目 標
一 次	1	「行ってみたい国を紹介しよう」 【指導のねらい】 世界にはいろいろな英語が話されていることに興味をもつ。 【活動内容】 1 英語ノートにある4人の自己紹介を教師の発音で聞いて、分かったことを発表する。 2 内容を確認してから、デジタル教材で再度聞き取ったり、練習したりする。	【家庭】 通級指導教室で学習した英語の内容について家族に話すことができる。 【在籍校】 通級指導教室で学習した外国語活動の内容についてまとめたファイルを、在籍校の担任の先生にチェックしてもらうことができる。
	1	「行ってみたい国を紹介しよう」 【指導のねらい】 行きたい国やその理由についての話を聞いて、その概要を理解する。 【活動内容】 1 英語ノートの巻末にある絵カードを使い、聞き取ったものを並べたり、英語で発音したりする。 2 国旗の絵カードを見ながら、教師の話している国の名前を発表する。	【家庭】【在籍校】 (継続しての連携) 在籍校や家庭での日常生活の中で、対象児が分からなかったことを尋ねた場合には十分称賛し、その尋ねた内容や、外国語活動への取組の様子などに関して、連絡帳を通して、通級指導担当者に伝えてもらう。
	1	「行ってみたい国を紹介しよう」 【指導のねらい】 行きたい国を尋ねたり、尋ねられて答えたりする。 【活動内容】 1 教師のスピーチを聞いて、分かったことをワークシートに書く。 2 自分の行きたい国についての情報を集める。	
	1 (本 時)	「行ってみたい国を紹介しよう」 【指導のねらい】 行きたい国をその理由と共に発表したり、相手の行きたい国やその理由を理解したりする。 【活動内容】 本時の実際を参照	【家庭】(第4週) 通級指導の際に作った自分の行きたい国クイズを家族に出して、答えてもらう。 【在籍校】(第4週) ファイルを担任の先生にチェックしてもらう。
二 次	1	「自分の一日を紹介しよう」 【指導のねらい】 世界には時差があることを知ると共に、時間についての表現を知る。	
	1	「自分の一日を紹介しよう」 【指導のねらい】 先生の一日の生活についての話を聞き、その概要を理解する。	
	1	「自分の一日を紹介しよう」 【指導のねらい】 自分の生活に関する表(生活表)を作成する。	【家庭】(第8週) 通級指導の際に作った生活表を家族に説明する。 【在籍校】(第8週) ファイルを担任の先生にチェックしてもらう。
	1	「自分の一日を紹介しよう」 【指導のねらい】 作成した生活表をもとに、自分の一日を紹介する。	

5 本 時 (4 / 8)

(1) 目 標

教師と外国語や日本語での会話を楽しむことができる。

行きたい国をその理由と共に発表したり，相手の行きたい国やその理由を理解したりする。話す人の口を注視して，音声に耳を傾けながら，内容を理解しようとする。

学習している内容や英語の発音が分からないときには，相手に自分の分からないところを伝えたり，どうすればよいかアドバイスをもらったりするような働き掛けができる。

(2) 展 開

時間	主 な 学 習 活 動	教 師 の 指 導
(分)	1 はじまりのあいさつをする。	前時の活動を振り返る活動を通して子どもと会話し，受け答えの様子を観察することで聞こえの状態を把握する。
(5)	2 前の時間の学習について振り返る。 ・ 今日と前の学習の日付を確認する。 ・ どんな学習をしたか振り返る。 ・ 家庭や在籍学級で取り組んだことを称賛する。	前時までに学んだことを生かすことができるように，前時に学習した内容を視覚的情報としてホワイトボードに提示しておく。
(5)	3 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">行きたい国を発表しよう。</div>	会話の中でサ行の発音に誤りがあった場合には，その場で修正したり練習したりする。
(32)	4 先生の行ってみたい国の話を聞く。 (発表例) Hallo,everyone. My name is . Please look at this. I want to go Italy. I like pizza. I like soccer. Thank you. (1) 教師のスピーチを聞く。 (2) 教師のスピーチを聞いて教師の行きたい国やその理由について答える。	教師が発する言葉の中で，意味が分からないものがあるときには質問したりするように促し，その場で調べたり確認することで，語いを増やす機会や内容を理解する機会を逃さないようにする。
(32)	5 自分の行きたい国を発表する。 (1) 理由と一緒に行きたい国を発表する。 (2) 教師の質問に答える。	分からないところを意思表示できた場合にはチェック表にシールをはり，十分に称賛することで，積極的に相手に自分の理解度を伝えようとする態度を身に付けることができるようにする。
(32)	6 「行きたい国はどこかなクイズ」をする。 (1) 教師の出す行きたい国のヒントを聞いてどこの国に行きたいのか予想して答える。 (2) 正解したら交代して，行きたい国の旗の模様の色や形，その国の特徴，あるいはなぜその国に行きたいかなどをヒントとして教師に問題を出す。教師は予想して答える。 (3) 保護者に出すクイズを考える。	写真や絵などの視覚的な情報を多く使うことで，対象児自身がより分かりやすく行きたい国について考えることができるようにする。
(3)	7 本時の活動を振り返り，自分の頑張ったことを発表する。 8 おわりのあいさつをする。	対象児がこれまでの学びを生かせるように，色や形，食べ物，スポーツなどの英語についてはヒントコーナーを作り，自分で考えることができるようにする。
(3)		今日の学習をめあてと結び付けて振り返り，話す人の口を注視して理解しようとしていたことや，分からないときに尋ねることができたことに対する称賛や励ましの言葉掛けをすることで，達成感を十分に味わうことができるようにする。